



**Data**

監督：篠原哲雄  
原作：横山秀夫『影踏み』（祥伝社文庫）  
出演：山崎まさよし／尾野真千子／北村匠海／滝藤賢一／鶴見辰吾／大竹しのぶ／中村ゆり／竹原ピストル／中尾明慶／藤野涼子／下條アトム／根岸季衣／真田真垂美／田中要次

### ■■■ショートコメント■■■

◆横山秀夫の原作を映画化した名作といえ、すぐに『半落ち』（04年）（『シネマ4』230頁）と『64—ロクヨン— 前編、後編』（16年）（『シネマ38』10頁、17頁）が思い浮かぶ。しかし、本作は警察組織小説で名を馳せた横山作品の中では極めて異色の、泥棒を主人公にした連作短編集が原作とのこと。そう聞くと、本作も必見！

泥棒にもいろいろあるが、歌手の山崎まさよし演じる主人公・真壁修一は人が寝静まった民家に忍び込む、「ノビ師」と呼ばれる常習窃盗犯だ。冒頭、彼の巧妙な手口が示されるが、そこで女の姿を目にした「ノビカベ」は意外にも……。何じゃ、これは……？

◆修一には、母親真壁直美（大竹しのぶ）と双子の弟啓二（北村匠海）を火事で失うという悲しい過去があった。そのため、修一はあの日、就寝中の夫に火を放とうとしていた妻・葉子（中村ゆり）を止めたわけだが、その直後に幼なじみの刑事・吉川聡介（竹原ピストル）に逮捕されてしまったから、アレレ。これは一体なぜ？

2年の刑期を終えて出所してきた修一は、その疑問を解明するべく以降刑事のような行動をとることに。そのため、幼なじみで、大人になってからも恋仲であるはずの女・安西久子（尾野真千子）の家を訪れたものの、久子の反対を押し切り、あくまで自分流の道を歩むことに。

◆本作のチラシには「犯罪小説ならではの〈謎解き〉と、登場人物に隠された〈秘密〉、人間の奥深い〈心理〉を重ねあわせた見事なストーリー。」とある。たしかに、本作では20年前の火事と2年前に修一がノビ師として押し入った葉子の家での「火事未遂」を絡めて微妙に揺れ動く修一の心理が描かれ、また、それに振り回される久子の女ゴコロも描かれる。しかし、それが一体ナニ？

他方、修一と同じく後に双子の弟だとわかる久能次朗（滝藤賢一）も登場する。この次朗は久子に結婚を申し込む誠実派だが、兄の方は……。そして、そこで起きる事件とは？

チラシには、本作は「映像か不可能とされた“異色”の犯罪ミステリーが、ついに映画化！！」とも書かれている。たしかにそうかもしれないが、滝藤賢一の過剰演技(?)を含めて、私には本作はイマイチ。ちなみに、『キネマ旬報』12月上旬特別号のREVIEWでも、3人の評論家は星2つ、3つ、2つと低評価だ。

2019（令和元）年11月29日記